

課題名:

Oxaliplatin が本邦に導入された後の大腸癌肺転移症例に対する肺転移切除の意義を検討する多施設共同後ろ向き臨床研究

研究の目的:

大腸癌の肺転移を認めた患者さんに対して一般的には抗がん剤治療が行われますが、病状が条件(手術の適応基準)を満たした場合、肺転移に対して手術を行うことで治療成績の改善が期待され、手術が行われることがあります。しかしながらこの適応基準の原則は 1960 年代に確立された古いものです。一方で近年 Oxaliplatin という抗がん剤の登場以降、進行大腸癌に対する抗がん剤治療の成績は大きな進歩を遂げています。そこで 2004 年から 2008 年の期間に大腸癌肺転移に対して切除を受けられた患者さんの臨床病理学的情報を後ろ向きに集積して解析することで、最近の有効な新薬を用いた全身化学療法が存在する状況における肺転移切除の成績を明らかにし、また切除の意義および今後の前向き研究の可能性などを検討するために本研究を行っています。

研究の方法:

本研究は過去に切除を受けられた患者さんの臨床病理学的情報を診療録(カルテ)から収集して解析を行う後ろ向き研究です。情報をより多く集めるために当院以外の施設も参加する多施設共同で研究を行います。

対照の患者さんは 2004 年 1 月 1 日から 2008 年 12 月 31 日の 5 年間に大腸癌肺転移に対して初回肺切除を受けられた方です。大腸癌とは具体的に盲腸癌、結腸癌、直腸 S 状部癌および直腸癌を含みます。

研究機関:

研究実施責任者:

近藤晴彦

杏林大学医学部外科(呼吸器・甲状腺) 教授

研究事務局:

奥村武弘

帝京大学医学部附属溝口病院 外科 講師

朴 成和

聖マリアンナ医科大学 臨床腫瘍学講座 教授

研究支援・データセンター：
特定非営利活動法人 つくばがん臨床試験グループ

データセンター責任者：
兵頭一之介
筑波大学医学医療系消化器内科学 教授

当院における研究組織参加者：
後藤行延
筑波大学医学医療系呼吸器外科学 講師

全ての個人情報の利用目的：

各患者さんの臨床病理学的情報は個人が特定されないように匿名化して収集し、厳重に管理されます。またその情報は研究目的のみに利用されます。研究結果の発表においては各個人が同定されることはありません。また、本研究で得られた情報は、つくばがん臨床試験グループにて以後5年間保存、保管されますが、同事務局にて情報の二次利用が有益であると判断された場合は、情報が二次利用されることがあります。その場合も、各個人が同定されることはありません。

全ての個人情報の開示手続：

つくばがん臨床試験グループ事務局は症例報告書あるいはその写しの取り扱いに関して、個人情報の保護に細心の注意を払い、情報の漏洩、紛失等がないように研究を行います。

本研究への参加：

本研究への参加をご希望されない場合は、下記連絡先にご連絡いただくことにより、いつでも断ることが可能です。

本研究に対する問い合わせ・苦情等の連絡先：

後藤 行延
筑波大学医学医療系呼吸器外科学 講師
連絡先：029-853-7940